

2016年度の事業活動の総括

2016年度の結果のまとめ

2016年度から2018年度までの第9次環境経営活動基本計画を策定し実行しています。

第9次は、第8次で定めた「事業経営」と「環境経営」との整合を引き続き強力に推進することをコンセプトに掲げています。また、エネルギー自由化に伴う調達多様化への対応、気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）における国の目標*との協調、機関投資家や企業評価機関他への環境情報の適切な開示と透明性確保を新たな重要側面と位置付けています。環境ビジョン2020達成に向け（1）CO₂ & エネルギーコスト削減、（2）3Rの推進、（3）環境負荷物質削減／資源保全推進、（4）当社グループの環境管理体制の充実の4つの課題に関する重点施策と、環境ブランドの向上に取り組んでいきます。

重点施策	第9次環境経営活動基本計画(2016~2018)	2016年度		記載ページ	
		目標	結果		
低炭素社会の実現	CO ₂ & エネルギーコスト削減	1.エネルギー見える化設備の活用等による資源・エネルギーコスト削減の推進 目標 年間の資源・エネルギーコストを5%以上削減する	年間の資源・エネルギーコストを5%以上削減	資源・エネルギーコスト削減率は7.1%であり、目標を達成した。	P.11
		2.CO ₂ 排出量の削減 目標 CO ₂ 排出量を原単位で前年度比3%以上削減する	CO ₂ 排出量原単位 ^(注1) を前年度(28.7t-CO ₂ /億円)比3%削減	CO ₂ 排出量原単位は28.6t-CO ₂ /億円となり、目標未達成であった。	
		3.製品貢献によるCO ₂ 排出量の削減 目標 製品貢献によるCO ₂ 排出量の削減効果を把握し外部発信する	製品貢献によるCO ₂ 排出量の削減効果を発信	製品貢献によるCO ₂ 排出量の削減効果は89.8万t-CO ₂ 。Kawasaki Report、環境報告書で情報を発信した。	
循環型社会の実現	3Rの推進	1.廃棄物総排出量の削減及びゼロエミッションの堅持 目標 廃棄物総排出量を原単位で第8次実績値から1%以上削減し、最終処分率は1%以下とする	廃棄物総排出量原単位 ^(注1) を第8次平均(4.65t/億円)から1%以上削減、最終処分(埋立)率1%以下	廃棄物総排出量原単位は4.36t/億円であり目標を達成した。最終処分(埋立)率は0.2%であり目標を達成した。	P.16
		2.リユース・リサイクルの推進 目標 リサイクル率を98%以上とする	リサイクル率98%以上	リサイクル率は98%であり、目標を達成した。	
		3.PCB処理の推進 目標 高濃度・低濃度PCB廃棄物を計画的に処理する	高濃度・低濃度PCB廃棄物の計画的な処理	高濃度・低濃度PCB廃棄物は、処分費基準で79%まで処分を進めた。	
自然共生社会の実現	環境負荷物質削減／資源保全推進	1.化学物質の削減 目標 主要VOC ^(注2) は原単位で第8次実績値から1%以上削減する。ジクロロメタンは前年度から1%以上削減する。六価クロムは2020年度までの原則ゼロ化を目指す	主要VOC原単位 ^(注1) を第8次平均(81.6kg/億円)から1%以上削減、ジクロロメタンを前年(39t)比1%以上削減。六価クロムを2020年度までに原則ゼロ化	主要VOC原単位は72.9kg/億円であり目標を達成した。ジクロロメタンは47tとなり、目標未達成であった。六価クロムの削減を進めた。	P.18
		2.水の省資源化 目標 水の使用量を原単位で毎年1%以上削減する。上水は節水・漏水対策の効果をコストでフォローする	水使用量原単位 ^(注1) を前年(0.508千m ³ /億円)比1%以上削減	水使用量原単位は0.520千m ³ /億円となり、目標未達成であった。	
		3.森林保全活動 目標 森林保全活動を年2回以上実施する	森林保全活動を年2回以上実施	兵庫県、高知県での活動を計4回行い、目標を達成した。	
環境マネジメントシステムの確立	川崎重工グループの環境管理体制の充実	1.環境マネジメント強化及び環境リスクの低減 目標 認証事業場はISO14001:2015年版への移行を完了する 国内外の生産拠点を訪問し環境管理状況の把握を進める	認証事業場におけるISO14001:2015年版への移行推進 国内外の生産拠点における環境管理状況を把握	精密機械カンパニーと船舶海洋カンパニーにて移行を完了した。他事業部門は2017年度の更新審査に向けた準備中。国内関連企業のうちCO ₂ 排出量の多い4社を訪問し、共通目標の検討を開始した。海外関連企業については2017年度に検討を予定。	P.23
環境イメージの向上	環境ブランドの向上	1.Kawasakiグリーン製品促進活動の推進 目標 Kawasakiグリーン製品を毎年登録し外部発信する 2.社外評価、ランキング等イメージアップ 目標 第三者検証の結果を公表しCDP等の評価向上、Dow Jones Sustainability Indexの銘柄選定を継続する	Kawasakiグリーン製品の登録及び外部発信 環境データ第三者検証の受審 CDP等の評価向上、Dow Jones Sustainability Indexの銘柄選定を継続	2017年は新たに10製品を評価して登録し、Kawasaki Report、環境報告書で情報を発信した。 温室効果ガス排出量について第三者検証を受審し公表した。CDPの評価についてはB評価(マネジメントレベル)、Dow Jones Sustainability Indexの銘柄に引き続き選定された。	P.28

注1) 原単位は当社売上高を分母とする。

注2) 主要VOC:当社グループでは、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを主要VOCとしています。(VOC:揮発性有機化合物(Volatile Organic Compounds))

※国のCO₂排出量削減目標
 COP21 (フランス パリ 2015.12)
 …………… 2030年度に2013年度比で26%削減する

グループミッション
 世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する
 “Global Kawasaki”

環境ビジョン2020

低炭素社会の実現

エネルギーを無駄なく利用する製品とものづくりでグローバルに地球温暖化防止に貢献

①2020年の温室効果ガスの排出量を、国の目標に合わせて削減している。
 ②エネルギーを有効に利用する製品・サービスを顧客に提供し、地球規模で温室効果ガスの排出を削減している。
 ③生産過程や物流過程における省エネルギーを推進し、温室効果ガスの排出削減を行っている。

循環型社会の実現

資源を無駄なく利用する製品とものづくりで、有限な資源を大切に活かし切り、循環させる

①資源を有効に利用する設計を推進し、製品の軽量化や耐久性・リサイクル性などの向上を推進している。
 ②生産活動での3R(廃棄物の発生抑制、再利用、再資源化)を推進し、全工場のゼロエミッションを達成している。
 ③全てのPCB廃棄物とPCB含有機器の適正処理を完了している。

自然共生社会の実現

地球環境に調和した製品とものづくりで、環境負荷を下げ、生態系の保全に貢献

①大気汚染や水質汚濁を防止する製品・サービスを顧客に提供し、環境の改善や生態系の保全を推進している。
 ②製品への化学物質の使用を削減するとともに、生産活動での化学物質の使用を削減している。
 ③地域の森林保全活動など、生態系の環境を保全する活動に協力している。

環境マネジメントシステムの確立

環境ビジョン2020を実現する環境経営の基盤づくり

①内外の全ての連結子会社がEMSを構築し、グループ全体で環境経営を推進している。
 ②環境法令を遵守し、定期的な遵守状況のフォローを行っている。
 ③社内外へ環境情報を発信し、双方向の対話を持ちながら環境保全活動をしている。

2020年 川崎重工グループのイメージ



2016年度の事業活動のマテリアルバランス(環境負荷の全体像)

2016年度の事業活動における環境負荷についてまとめています。

2015年度の実績と比較して、INPUTであるエネルギー使用量、原材料、水資源はいずれも増加しました。OUTPUTのうち、大気への排出量、廃棄物はともに減少しましたが、水域への排出量は増加しました。

また、第8次環境経営活動基本計画にあたる2013年度～2015年度の平均値と比較すると、INPUTは増加した一方で、OUTPUTのうちSOx、NOx、水域への排出量は減少しました。

